

ウェルネ特集1  
「漢方」

## 「漢方」で元気になる

## 2千年の歴史を持つ医学

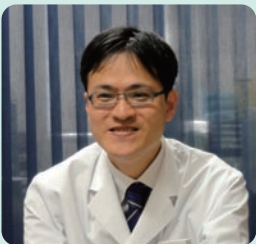
## ——「漢方」とはどんな医学なのでしょう？

ご存じのように「漢」は昔の中国で、その名の通り「漢方」は今から2千年前の中国で基本的な考え方が確立し、その後日本にも伝わりました。江戸時代までは医学がイコール漢方でしたから、わざわざ漢方医学とは呼ばれなかったのですが、明治時代に西洋医学が入ってくると、漢方はいったん国家的に否定されます。医師免許は西洋流の医学を学んだ者にだけ与えられるようになる

のですね。その後日本でも漢方医学が少しずつ認められるようになり、厳密に言えば現在でも医療制度上は「漢方の医師」という人は日本にはいないのです。漢方医というのはいわば通称なんですね。

ちなみに漢方のことを中国では「中医学」、韓国では「韓医学」と呼びますが、それぞれ西洋医学とは別に国家試験があり、国から医師免許を与えられるまで、中国や韓国では漢方医の社会的地位が日本とは違ってとても高いんですよ。

## Interview



大阪大学大学院  
医学系研究科 漢方医学寄附講座  
准教授  
西田 慎二 先生

知っているようで知らない「漢方」の世界。今回は漢方医学の基本的な考え方、診断や治療の方法などについて大阪大学大学院の西田先生に伺いました。

## 心と体を分離しない

## ——西洋医学とはどう違うのでしょうか？

漢方医学では体温計で熱を計ったり、採血して検査したり、レントゲンで撮影するといったことは本来はしません。診察はすべて体の各部を手で「触診」したり、舌や顔色を目で「観察」するなど、アナログ的な方法で行います。それは漢方が西洋医学とは異なる独自の解剖学、生理学、病理学の体系を持っているからです。

たとえば「口に「脈を診る」といっても、手首だけでなく、首や腹足などいろんな部位を触診します。手首の脈だけでも、触る場所

の微妙な違いで、肝の臓・心の臓・脾の臓・肺の臓・腎の臓など、色々な臓器の状態を調べることができ、舌を診るときも、舌の先は上半身の状態、奥の方は下半身という風に、体の各所に関係づけてとらえます。だから目の病気であれ、アトピーであれ、症状に関わらず全身を触診しますし、問診票を書くときの字の勢いなども注意深く観察します。

もう一つ大きな特長は「心と体を分離しない」ことです。たとえば肝臓は、西洋医学では毒素の分解やタンパクの合成の機能を果たす器官ですが、漢方では「氣」の流れを司る重要な臓で、胆嚢とも深く関わっています。西洋医学では胆嚢は胆汁を分泌する小さな臓器

## 複雑な成分が総合的に作用

## ——治療法も西洋医学とは違うのですか？

漢方では生薬、いわゆる「漢方薬」が治療の基本になります。手術で切り取るなどの外科的な治療はしません。ただ、針を使う鍼灸療法は、実は漢方と深い関係があつて、江戸時代の漢方医は鍼灸の術も必ず備えていました。現在の漢方医療では、医療法上の問題もあつて鍼灸療法は行わないのが

## ウェルネ特集1

「漢方」

普通ですが、元々は同じものだったのです。理論考え方の体系が同じと言ってもいいでしょう。

### 漢方薬の原材料は？

実に様々です。多種多様な植物の葉・花・枝・皮・根・種・実など様々な部位が生薬として使われます。また、ときに動物系のものを使用することもあります。ミミズやハチアブなどの昆虫、カマキリの卵、セミの抜け殻、ムササビやコウモリの糞、他にも色々な動物の骨や歯、貝殻、さらには石こうのような鉱物も使います。多くはそのままではなく、干したり、蒸したり、焼いたり色々な加工をして薬にします。国の薬価基準で認められている漢方薬も約150種類ほどあるんですよ。



ただ、一般の医薬品のように成分の精製などは行いません。西洋医学は実験を繰り返して様々な有効成分を植物などから抽出して特定して医薬品の数を増やしてきましたが、漢方では生薬に含まれる無数の微量成分が一体となつて、総合的に作用すると考えます。だから「何がどう効いているのか？」と尋ねられると難しいのです。そういう点では、食物と薬を同じように捉える「薬膳」の考え方に非常に近いですね。というよりも、薬膳の理論は漢方そのものと言えると思います。

### 元気をつけるという発想

漢方と西洋医学とはどんな関係にあるのですか？  
どちらが優れているかではなく、西洋医学の思考と、漢方の思考とを考えたと思っています。西洋医学的な考え方では捉えられない症状が、漢方の体系で捉えられる場合も多くあります。私のところ（大阪大学附属病院・漢方医学科）に来る患者さんの多くは、一般の病院で西洋医学の診断や検査を済ませた人です。たとえば、胃が痛いんだけど、胃カメラで精密に検査して、胃薬を飲んででも治らない。そういう患者さんを漢方の思考と方法によって、精神的な面、体質的な面も含めてゆつくりと元気にしていくのです。

### 漢方医学の得意な分野とは？

婦人科系の疾患や心身症、精神疾患、アトピーなどのアレルギー系の疾患の方は多く来られます。その他にも冷え性、食が細い、朝が苦手、慢性の下痢といった原因の特定しにくい体質的な症状も、漢方薬の効果が期待できると思います。元気がない人に総合的に働きかけて元気にしていくというイメージですね。「元気をつける」というのは、西洋医学にはない発想だと思います。

### 漢方を「普通の医学」に

これからの漢方医学がめざすものは？

漢方を「普通の医学」にしたいと思っています。漢方というとなに

やら古くさい、非科学的な医師というイメージを持っている人も多いでしょうが、ほとんどの医科大学では漢方（生薬学）の授業が行われていますし、薬剤師の試験にも漢方は出題されているんです。最近では医療機関が漢方医療を標榜できるような制度が変わり、開業医でも「漢方内科」や「漢方婦人科」などの看板を掲げている病院や診療所が全国に増えています。

生活習慣病や心身症など、現代の医療では未だ克服されていない分野にも、漢方の側から貢献できることは多いはず。これからの時代は、漢方医学と西洋医学、それぞれが優れた面を補い合つて、お互いの得意分野を組み合わせ、一つの医学として発展していくべき

だと思っています。それは日本の医療の進展にも必ず有益なことだと信じています。

### ありがとうございます。

#### 今回お話を伺った西田慎二先生のプロフィール



大阪大学大学院医学系研究科 漢方医学寄附講座 准教授  
大阪大学医学部附属病院 漢方医学科 診療科長  
<所属学会等>  
日本東洋医学会(専門医・研修指導医・代議員) / 和漢医薬学会  
日本東洋医学会(専門医・代議員) / 日本心療内科学会(登録医・評議員)  
日本心身医学会(専門医・代議員) / 日本心療内科学会(登録医・評議員)  
日本内科学会(認定医) / 東亜医学協会評議員  
その他 関西医科大学非常勤講師、神戸大学非常勤講師  
各種学会・市民公開講座での講演等

- 大阪大学附属病院 漢方医学科のホームページ  
<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/category/29.php>
- 大阪大学大学院医学系研究科 漢方医学寄附講座のホームページ  
<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/kanpou/index.html>  
…受診のしかた、全国の漢方医の検索サイトの紹介等

※ご注意  
大阪大学附属病院では、患者さんご自身が直接ご予約を取ることはできません。かかりつけ医の紹介が必要です。詳しくは「漢方医学寄附講座」ホームページ参照

## ウェルネ特集1

「漢方」